様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３７１１７
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ２１９８２

研究課題名（和文）ウルドゥー語女性雑誌における女性の表象とその歴史的変容

研究課題名（英文）Representation of women in Urdu women's magazines and their historical transformation

研究代表者
村上　明香（Murakami, Asuka）

筑紫女学園大学・文学部・講師

研究者番号：２０８８０６８６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、20世紀初頭にウルドゥー語で刊行された主要な女性雑誌『Khatun』『Ismat』を対象として女性の表象の分析を行い、その特徴と変容の過程を検証した。その結果、女性表象は記事の種類によって特徴が分かれる傾向にあることが判明した。特に、実在の女性について書かれた伝記記事に従来の女性像には見られなかった勇敢な女性、戦う女性、国政に関与する女性が好意的に取り上げられている傾向があること、その傾向は1910年代以降に顕著になることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の意義は、20世紀初頭にウルドゥー語で刊行された女性雑誌を資料とし、既存の研究が看過してきた女性の表象を補填し、その歴史的変容を明らかにすることで女性の役割や社会との関わりと再検討しようとた点にある。女性雑誌がインド近代化における社会変革の諸相を反映していたことはこれまでの研究でも語られてきたことであるが、そうした特徴をもつ女性雑誌を手掛かりに女性の表象を再整理・検討したことで、女性表象の新たな一面を浮かび上がらせることができたものと考える。

研究成果の概要（英文）：This study analysed women's representation in the major Urdu-language women's magazines, Khatun and Ismat in the early 20th century, examining their characteristics and the process of transformation. The results showed that the characteristics of women's representation tended to be divided according to the article type. In particular, it was found that biographical articles written about real women tended to favourably feature brave women, fighting women, and women involved in national politics. These images were not common in conventional- perspectives of women and became more pronounced from the 1910s onwards.

研究分野：文学、ジェンダー

キーワード：女性雑誌　近代インド　女性表象　ウルドゥー文学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

申請者は、2019 年 8 月にインド国立イラーハーバード大学に提出した博士論文において主に 19 世紀にウルドゥー語で書かれた小説中に描かれた女性像や女性に関する諸問題について扱ったが、今後は時代区分も 19 世紀から 20 世紀前半まで拡大し、同時期に書かれた女性に関する様々な文献（伝記、自伝、女性語辞典、生活指南書、雑誌など）を網羅的に取り扱いながら、社会の変容を的確にとらえたいと考えていた。その中でまず注目したのが、ウルドゥー語で書かれた女性雑誌であった。

ウルドゥー語の雑誌文化は 19 世紀半ばに始まり、20 世紀に入ると印刷技術や交通網の発達の後押しを受けて広く発展した。こうして普及範囲や購買層が拡大すると、「近代化」を目指す社会改革者や独立運動の指導者たちは雑誌を自分たちの理念を広く主張・流布する場と捉え、その編集・発行に着手した。女子教育普及や女性の地位向上は当時の改革者らの最大の関心事であり、彼らの発行する雑誌にはそれらについて論じる記事も多数掲載された。その背景には、女性の改革が民族やコミュニティの発展や再興につながるという当時の思想があった。こうした流れの中で、19 世紀末には男性改革者らが主体となってウルドゥー語の女性向け雑誌の刊行が開始された。20 世紀に入ると各地からさらに数多くの女性雑誌が刊行されるようになり、やがて女性による投稿記事や女性が編集長を務める雑誌も増加していった。その様な中で、特に女性雑誌は「パルダ（南アジアの女性隔離の慣習）」によって外界から隔離されていた当時の女性に様々な着想を与えるため、そして女性自身が外部に向かって自分の意見を発信するための重要な手段であった。こうした背景をもつ女性雑誌は、女性像や女性に関する諸問題の歴史的変容をとらえるための大変有意義な資料になりうると考えた。

そこで、手始めに主要雑誌のひとつである「Khāṭūn」誌の記事分析に着手したところ、既存の研究ではこの時代の女性雑誌は一貫して良き妻、賢い母、有能な主婦、善良なムスリマという、いわば典型的な「女性の理想像」を描き、家庭内における女性の伝統的ジェンダーロールを強調しにすぎないとされてきたのに対して、実際には上記の枠には当てはまらない、「勇敢な女性像」が理想的に描かれていることを発見した。こうした女性像は、これまでの研究で見落とされた女性像であると言える。こうした女性像が他にもあるのではないか、こうした女性像を炙り出しその全容を明らかにすることで、これまでの文学研究、ジェンダー研究に一石を投じることが出来るのではないかと考えたことが、本研究の着想に至った経緯である。

２．研究の目的

本研究は、20 世紀初頭にウルドゥー語で刊行された主要な女性雑誌「Khāṭūn」誌（1904 年創刊）、「'Ismat」誌（1908 年創刊）を対象に女性の表象の分析を行い、その特徴と変容の過程を明らかにすることを目的とする。さらに、当時の社会状況とも照らし合わせて考察を試みることを目指す。本研究の意義は、既存の研究が看過してきた女性の表象を補填し、その歴史的変容を明らかにすることで女性の役割や社会との関わりと再検討しようとする点にある。なお、対象期間は「Khāṭūn」誌が創刊された 1904 年から閉刊された 1914 年までの 10 年間とする。

３．研究の方法

主な研究方法は（１）インド・パキスタンの主要な図書館およびインターネットでの資料収集、（２）調査データのリスト化および分析、（３）成果の公表が中心である。

（１）インド・パキスタンの主要な図書館およびインターネットでの資料収集

①新型コロナウイルスの世界的流行の影響により海外での資料収集が困難である期間は、インターネット上で公開されている資料や図書館間相互貸借（ILL）を用いて資料を収集する。主な調査対象は以下を予定している。

・Rekhta（https://www.rekhta.org/ebooks）

・Internet Archive (https://wayback-api.archive.org/)

・British Library Endangered Archives Programme (https://eap.bl.uk/project/EAP1435)

②渡航が可能となった後はまず、「Khāṭūn」誌が刊行されたアリーガルの主要図書館（Aligarh Muslim university, Maulana Azad Library、Shaikh Abdullah Girls' College）、「'Ismat」誌が刊行されたデリーの主要図書館（Urdu Akademy Delhi, Jamia Millia Islamia, Zakir HusainLibrary）を中心に調査を行う。これらの図書館に加え、現地の図書館員ならびに研究者に雑誌を所有するその他の図書館の情報を確認する。

（２）調査データのリスト化および分析

①インターネットや現地での資料収集の結果をふまえて、各雑誌の書誌情報および所蔵図書館を表にまとめる作業を行う。インドやパキスタンでは、未だに雑誌のオンライン蔵書目録はもとより、紙ベースの目録もきちんと整っていないケースが多い。そのため、多くの研究者がアクセスできるよう書誌情報および所蔵図書館の一覧をインターネット上で掲載することを目標とする。

②記事の種類や書き手の性別、書かれた時期などに着目しながら、それぞれの記事の中に描かれる女性像や女性に関する諸問題について分析し、その特徴や変容について考察する。

（３）成果の公表

①上記の成果の一部を国内外の学会や研究会で口頭発表するほか、学会誌などに論文として発表することを目指す。

②インターネットを使用して、各雑誌の書誌情報および所蔵先一覧の公開を目指す。

４．研究成果

（１）主な研究成果

①雑誌の収集および所蔵確認

インターネットを通して資料収集を行うとともに、インドでは当初予定していた Aligarh Muslim university, Maulana Azad Library（アリーガル）、Shaikh Abdullah Girls' College（アリーガル）、Urdu Akademy Delhi（デリー）、に加えて、Nehru Memorial Museum and Library（デリー）、Iqbal Library（ボーパール）、Maulana Abul Kalam Azad Central Library（ボーパール）での調査を行った。さらに、パキスタンの都市カラチにおいて Anjuman Taraqqi Urdu Library、Universitiy of Karachi, Dr. Mahmud Husain Library、Bedil Library、Hamdard University において資料収集をおこなった。その結果、「Khāṭūn」誌については刊行された全 126 号中 114 号分、「'Ismat」誌については対象となる 79 号中 33 号分のデータを収集することができた。

②女性表象の分析

記事の内容を分析すると、家事や育児、夫との接し方や身だしなみなど、身に着けるべき要素や振る舞いについて書かれた記事や女性に関する諸問題（女子教育、女性の権利、パルダ、重婚や幼児婚の弊害）を扱った記事のほか、文学作品（詩、戯曲、小説）、女性の書いた旅行記、伝記、都市での催し物や著名人の訃報、時事ニュースなど、多岐にわたる記事が確認された。その中でも、女性として身に着けるべき要素や振る舞いについて書かれた記事や文学作品においては、従来の「理想の女性像」が描かれる傾向がみられた。その一方で、旅行記や伝記には海外を旅行し社交界に進出する女性や、戦場に出て戦う勇敢な女性や国政に関与する女性など、従来は描かれることのなかった女性像が見られる傾向があることが判明した。文学作品に従来の「理想の女性像」が描かれたのは、当時の文学の潮流に影響を受けたものと考えられる。

③伝記記事に見られる女性像とその変容

特に従来と異なる女性像が顕著に描かれていたのが、伝記記事である。女性雑誌が刊行され始めた 19 世紀末は、ウルドゥー語伝記文学の創始期にもあたる。この時期の伝記文学の特徴として、偉人の優れた業績を示すことで同胞らを覚醒させ改革へと導こうとした点が指摘されている。さらに、この時期の女性雑誌もまた女性の啓蒙を目的とする傾向が強くみられた。こうした目的の一致のためか、この時代の雑誌には伝記記事が多く掲載されおり「Khāṭūn」誌には 68 本の記事の存在が確認された。

これらの記事にみられた特徴として、①「Khāṭūn」誌が刊行された 1904 年頃は、良妻賢母像や高等教育を受けた女性、女子教育に貢献した女性が取り上げられるが、1910 年頃になると女性統治者や戦いの中に身を置いた勇敢な女性を取り上げた伝記が増える、②年代が進むにつれて公共圏と関わりをもつ女性の姿がフォーカスされる傾向がみられるが、パルダ（女性隔離の慣習）については肯定・否定両方の記事が見られ、解釈の揺れが生じ始めていたことが分かる、③記事には様々な時代、国籍、宗教の女性が取り上げられているが、年代が進むにつれてムスリム女性が取り上げられる割合が増加する、といった点が挙げられる。特に②の点については、1911 年 11 月に刊行された号には今日の男性が女性を男性の心の慰み、家を守るだけの存在と考えていることへの苦言を述べたうえで、ムガル帝国の第 3 代皇帝アクバル軍との戦の中で夫を失ったのちも勇敢に戦い戦死したマディヤプラデーシュの王妃 Rani Durgavati を称えるなど、従来の「女性＝家」といった概念を否定し、主体となって戦う姿を賛美する描写がみられた。こうした背景には、民族運動の高まりにより、女性も主体となって「民族（qaum）」のために戦うことが求められたことが影響している可能性が考えられるが、他の雑誌に掲載された伝記記事の傾向も踏まえてさらに検証を行う必要がある。

（２）今後の課題

本研究は、1904 年から 1914 年までの 10 年間に刊行された「Khāṭūn」誌および「'Ismat」誌を対象としたが、上記にも述べたように女性表象の特徴や変容について考察するためには他の女性雑誌に掲載された記事の傾向をも踏まえてさらなる検証を行う必要性がある。今後は、本研究の後継となる若手研究「ウルドゥー語女性雑誌の伝記記事における女性表象の変容と「近代」」（研究課題 24K21006）において、1880 年代から 1947 年までに刊行され

たウルドゥー語の女性向け雑誌に掲載された伝記記事を資料として、特に「女性の在り方」や「公共圏との関わり方」の表象とその変容を検証することで、インド人ムスリムたちが目指した「近代インド社会」の一端を明らかにすることを課題としたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 村上　明香	４．巻 16
２．論文標題 初期ウルドゥー語小説に描かれる「愛」と「近代化」－タワーイフとの関係に焦点をあててー	５．発行年 2022年
３．雑誌名 東京外国語大学南アジア研究リサーチペーパー	６．最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計6件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 村上　明香
２．発表標題 「19世紀のウルドゥー文学にみるタワーイフ」「19世紀のウルドゥー文学にみるタワーイフ」
３．学会等名 基盤研究（C）「南アジアにおける女性芸能者の特徴とスティグマに関する文化人類学的研究」研究会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 村上　明香
２．発表標題 「「近代化」は女性にどのような影響を与えたのかーウルドゥー文学作品に描かれるタワーイフ像の事例から」
３．学会等名 筑紫女学園大学人間文化研究所研究談話会
４．発表年 2023年

１．発表者名 村上　明香
２．発表標題 「愛について語るときに彼/女らの語ること；フランチェスカ・オルシニ編 Love in South Asia : A Cultural Historyを読む」
３．学会等名 「感情」科研・AA研共同研究「南アジアの社会変動・運動における情動的契機」合体研究会
４．発表年 2023年

１．発表者名 村上　明香
２．発表標題 「「感情」は何を語るのか：Margrit Pernau氏の研究を通して」
３．学会等名 2021年度第４回FINDAS（東京外国語大学南アジア研究センター）研究会「インドにおける感情を考える：モダニティとヒンディー映画における恋愛を中心に」
４．発表年 2021年

１．発表者名 村上　明香
２．発表標題 イスマット・チュグターイー．と円地文子の小説『女坂』
３．学会等名 日本南アジア学会第33回全国大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 村上　明香
２．発表標題 初期ウルドゥー語小説に現れる女性像：”Fasana e mubtala”のハリヤーリーを事例として
３．学会等名 第一回FINDAS(東京外国語大学拠点南アジア研究センター)若手研究者セミナー「南アジアの文学・芸能と社会」
４．発表年 2020年

〔図書〕　計1件

１．著者名 小磯　千尋、小松　久恵	４．発行年 2022年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 200
３．書名 インド文化読本	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関